

定 一 部 金 貳 錢  
一 夕 月 卅 錢  
廣 告 五 號 十 二  
字 語 一 行 十 二  
五 十 錢 一 行 十 二  
日 刊 休 日 曜 大 祭  
日 祝 日 日 祭  
日 祝 日 日 祭

福島縣石城郡平町長橋町三五番  
發行所 常盤毎日新聞社  
電話六三〇番

常盤毎日新聞

十月二十日夕刊

本社 同 番 地 （電 話 六 三 〇 番）  
印刷所 常盤毎日印刷所

狂言 狐 島田忠夫戯作

（承前）

月見などして参りませう  
男「それがえ、それがえ」  
女「酒もありません故、一こ  
ん参りませぬ。……ど、  
小便など入れてやれ。  
男「あううまい。これ、さ  
かなを出されい。  
女「このまんじゅうも召し  
ませい。  
男「あううまい」  
女「さつきこの邊で野馬が  
ばばをした筈ぢや。  
男「あ、酒もうまい、月も

女「さあ、踊りませい。妾  
は唄ひませうほどに。  
男「あゝこつや」  
女「（狐の姿になつて逃げ  
る）  
狐「（去りながら）こんこ  
ん。馬鹿こんこん。  
男「はくじよん、おう  
急に寒うなつた。おや月  
も落ちたぞ。なあ女どの  
ハテナ手をつめらうか。  
痛いわい肩に睡なご付け  
やうか。——はくじよん  
これは狐に化かされ居つ  
た。  
やあ、憎い狐奴。待ちませ  
い」  
附記 狐は假面を用ひた  
（完）

明鮮美優 嚙可速敏

活版印刷の 御用命を御 願致します

所刷印日每警常  
五三町橋長町平  
(番〇三六話電)

學生服入荷

種々取揃へました  
大勉強いたします  
小供洋服は壹圓より其他特  
別格安もの多数是非御出下  
さい

十字屋洋服店  
平停車場前通り

極上中學服入荷

位 四圓五十錢  
一年生位 四圓八十錢  
二年生位 四圓十錢  
三年生位 五圓十錢

平二 な か や 洋 服 店 電 二 〇 三

初秋の御用意品案内

合着シャツとして  
確かに皆様より歡  
迎を受けるスムー  
スシャツは肌觸り  
滑かです且實用品で  
あります  
並時 壹圓五拾錢  
大時 壹圓八拾錢  
綿ネルと本ネルの  
ワイシャツ  
—— 中折帽子  
—— 烏打帽子  
—— 中山帽子  
—— 子供帽子

新柄種々陳列致し  
ました  
ツルヤ  
電話百四十番

會田時計店  
平町四(電三六三)

蓄音器・貴金屬  
平町紺屋町(縣社通り)

美味 評判  
イウキ食堂  
オの部話電四六〇番

肉盤其まゝの高級  
ビクターレコード枚一、50錢  
日本物と音楽  
蓄音器針は  
ビクター針先 35錢  
一度御試聴下さい

印コレ  
蓄音器・貴金屬

電話八四三番  
平町田町  
宇佐美藥局

賣藥御買上金壹圓以上の方に  
金貳拾錢商品券進呈

方子様  
秋の御用意

幸福印  
通學服の特價提供

極上小倉製半ズボン上下  
一二年用……一圓九十錢  
二三年用……二圓十錢  
三四年用……二圓三十錢  
四五年用……二圓五十錢  
五六年用……二圓七十錢  
高等科用……三圓十錢  
中學生用……三圓五十錢  
秋冬帽子各種取揃  
ニルワイシャツネクタイ

平町五丁目(電話三五三番)  
モリタヤ洋品店

超特上作映特別大興行

賜澄宮殿下御覽臺  
佛國學士院御推賞  
大日本文部省  
英國文部省  
獨逸教育部  
大文豪 エクトル、マロー作  
天才少年 レスリーショウ主演

激賞  
—— 世は情の教科書 ——  
改造社發行、世界大衆文學全集第  
一回配本

十月十二日ヨリ十八日マデ  
午後六時開館 十一時閉館  
土曜 日曜 晝 夜

月形龍之助獨立第一回作品 帝キネ特作映畫  
マキノプロダクション提供  
酒毒の劍法  
月形陽候、湊明子主演

後 帝キネ特作映畫  
實川延松歌川八重子主演  
淚の馬子唄  
歌川八重子、松村チエ子主演

各書店にて割引差上げます 新加入 白原春華 町田英二 高橋有聲座  
月岡一骨 鈴木一華 常盤有聲座

平映畫ファン聯盟  
平文藝協會  
平書籍店同會  
平新聞社

特別大興行につき  
入場料 特等 六〇〇  
一等 五〇〇  
普通席 四〇〇



御料理 越の家  
天ぶら 平町二丁目  
電話五三〇番

株式賣買金融  
鈴木彌米商店

加藤丈夫營業所  
昭利園  
貨家地所代理店部(平町字白銀町電話三二番)

平町長橋町  
小野園次郎  
加登屋號(電話二五一番)

平町字大町  
平町字鷹匠町  
平町舊城跡本丸  
(平町大町)

祝五週年

野崎君の

返し演説

大瀧問題でまた騒出す
平地に波らんを起す行動
架橋放水と水槽分水の比較

野崎町議其他が既に解決した大瀧發電所問題に關し此程何か蒸し返しの演説を爲し問題を更らに再燃せしめ

平地に

波瀾を起す行動に出たとの事であるが同演説の趣旨としては架橋分流通は八重の手敷であつて寧ろ水槽分水が平町の爲めに幸福であるといふにあらう。架橋分流通に就いては平町側と會社側とが妥協の際に於て兩者互譲の精神に基き然も水道に對する

萬全の

策也と信じ手打ちを爲した解決案の眼目であつて勿論兩者には異議がない筈であつた、而して會社側の一員として野崎町議も其席に連なり同案件に關し鳩首疑議を遂げた筈なのであるから若し平町に對して對だ不利な案件であつたとすれば既に其際に於て野崎君は大きい

異議を

唱へて奮起せねばならぬに拘らず今頃になつてから騒ぎ立てるといふに就いては以前の野崎君なれば兎も角、今では縣會議員の肩書と共に鼻の下にも美髯を蓄へた野崎君の行動として其は甚だ腑に落ち

京阪の旅から

一平南京阪旅行團(第五信) 加茂川を優し

き調に旅路の夢をまかせた京の夜は明け、雨にやんだ旅人は寝ねては天を崇じ、起きては空を睨んでゐたのに、人定ま

分流にすれば會社は全部の水を好間川から取入れて其内から自分で電氣を起す丈の水を貰ひ其他は全部大瀧江筋の河口に流し込むといふ事になるのであるから平町は水不足を告げる事がない。そして會社側の水路に故障の起つた場合は會社は好間川の水を自分の

會社側

として架橋分流通に心よからず考へる事は無理のない點もある夫れは外ではない、即ち架橋分流通に依れば水槽分水よりも落差が五十尺減る事になり夫れだけ發電力が稀薄になるからである、會社が落差を減縮すると云ふ事は大なる犠牲であらう。されば平町側としても營利會社の

利益を

減らす事は甚だお氣の毒也と考へ何んとか其處には色も付けないのであるが、何しろ三萬町民死活の鍵である水道の水量に關する事である丈に未だ海のものとも山のものとも解らない會社の利益と町民の

生命と

の取り換へこは出來ぬ、其結果平町は水槽分水と架橋分流通を比較研究の結果、架橋分流通が平町將來の利益を獲得するものとして此事に纏り會社も承認しましたと折れて出たのである。然らば平町に對して何故架橋分流通が水槽分水よりも安心であるかといふに先づザツト申せば架橋

分流にすれば會社は全部の水を好間川から取入れて其内から自分で電氣を起す丈の水を貰ひ其他は全部大瀧江筋の河口に流し込むといふ事になるのであるから平町は水不足を告げる事がない。そして會社側の水路に故障の起つた場合は會社は好間川の水を自分の

水路に

引入れぬから平町は好間川の本流から平氣で水を引く事が出来る然るに水槽分水にすれば好間川の全部の水は會社の水路に取入る事が出来ない即ち一定量より以外に會社は水路へ取水する事が出来ないから、若し干天續き下水不足を告げる様な事があれば會社は

電氣を

起せぬ事になり脊に腹は代へられぬ處から平町へ分水する水量を減らすといふ事になる、減らしませんとは申すであらうが一營利會社の云ふ事等は信用が出来ない、夫れは此問題に關する五ヶ年間に亘る平町との間に於ける紛争がよく立澄して居る事であつて説明を要しない、此外種々理由はあるが、大体は左様な譯である、そんな不安な状態に平町が置かれるよりは前に述べた架橋分流通が優つて居るだから野崎君等も會社の落

不安な

状態に平町が置かれるよりは前に述べた架橋分流通が優つて居るだから野崎君等も會社の落

から今更ら諦めかねての男らしからざる態度と思はれる様な行動には出ぬが好からうと苦言を呈して置く

御眞影奉戴

明日擧式の筈
濱三郡各學校に下賜された御眞影は本日午後一時四十分到着の平郡線列車より大久保學務課長奉戴、猪狩平署長警衛、驛前に整列した警中、警女、平商、第一第二兩小學校各生徒の最敬礼に警中に一時假り奉安した、明日午前八時より奉戴式擧行の筈

再入選の喜び

帝展に「吹矢」
帝展第三部「ふきや」を出品して美譽入選の榮を得た本田朝忠氏は石城郡平町八幡小路に居住し今年卅四歳の壯年である、氏の入選は是で二度目で昨年は同じ彫刻「夜陰」を出品して入選した

故山懐し

談分な磐城
京都磐城中窓會便り
去る九月卅日午後六時より磐城中窓會同窓會京都支部十六回例會を久し振りに吉田山、東洋花壇にて開催した、鈴木支部長は相變らず時間勵行、六時に遅れたものは赤面の至りであつた。世話役であつた新妻君の開會の辭あ

病氣の

老婆を背負ふ
一里半の山道
奇特な折筈彌之助君
平町北目町折筈左重三男彌之助君(八)は磐城佐賀學舎教員養成科一年生だが去月赤井嶽の十二神將鑄造完成當日參詣しての歸途六十五六歳の老婆が病氣で苦しむ悶てゐるのを發見一里半

出席者へ記念品

平町では来る十五六日開催される本縣第四回清酒品評會優良者賞品授與式當日出席者全部に記念品として平名所案内節節平町勢要覽を寄贈すると

り鈴木支部長の挨拶あり後宴にうつる新會員のため自己紹介あり、種々學生諸君の將來の抱負等をきく前途洋々たるものがある。會場は吉田山の頂上で夜の京都市が全部見渡され、天下の絶景である。黒谷の初夜の鐘が告ぐる頃大文字山より月が出て詩情を添へる、宴半に至れば磐城名物の歌が出て来る。堅坑三千尺此世の地獄、「なんだやろやつたな」等、宴をとりもつ京女もさすがに吃驚の體であつた。奥山先生、遠藤先生中根先生、山崎先生等の話が出て来る。話はこれすべて磐城の話である。願ふと京都支部からは矢吹清、赤津、佐波古、矢吹一男、金子の諸博士を出し、今また博士の卵が澤山居る事である。この後の結末を誓ひ十一時乾盃して散會した。(幹事青木淳、新妻正男)
△鐵紡山科工場長、鈴木正武△大谷大學教授立花勝△府立第一中學教諭、新妻利久△洋書家、吉田嘉吉△醫學博士、矢吹一男△京都市技師、小藥五郎△立命館大學文科二年、青木淳△智山大學教授、谷津田教智△福知山聯隊步兵大尉、野島金平△京大法科大學一年、新妻正男△京大醫科大學二年、鈴木巖△同吉田彌△京大醫科大學一年山本正三△京大工科一年、竹内一雄△武術專門學校三年、箱崎三九馬△第三高等學校、大井川基司△外五名

湧かし、圓山公園を通つて八坂神社から清水寺に入る。音羽の山に音羽の森、新高雄などを縦にし鳥邊山を過ぎて豊國神社方廣寺に至る、方廣寺の鐘の銘は小さいが注意して見る之がいかの大坂城の運命の定つた鐘だと思へば誰しも心ある者は目を冥つて當時の家康の得意と秀頼の無念とを考へないものはない。此の鐘樓の下に店敷く京人は英雄腹後の夢を破つた此の響も知らぬ顔に撞く人の心に任せて金を食つて願ひなき。次で血天井三十三間堂に詣で、堂は古びたれども流石に佛教隆盛時代の面影を眼前に髣髴させて餘りある。長い廊下に弓矢を競つた跡も物床しい。昔僧兵であつたと思はる、街を歩

いて北野天満を拜し金閣寺に急いだ。金閣寺は流石に義滿の驕奢を偲ぶものがあつた。昔百萬の膏血を絞つて榮華を極めた跡も在り在りと現はれてゐる。ぼか／＼とした日を背にうけながら電車で嵐山に向ふ。遊人も随分多かつた。幽邃な谷の櫻も黄はんで春ならざるを痛むやうにあまり顧みられない。渡月橋を渡つて川向ふにポイントを浮べた一棧の秋を夏に探るものも多かつた。流るゝ水は玉の如く清い。こゝから又あの雑踏と騒音との新京城に折角の美しい氣分を破壊する様な氣分がした。重いそして疲れ足を引きつづつて宿に着き夕食がすむと京の華々しい灯に誘はれて疲も打

ち忘れて街を歩くしかしこの賑はしさと華やかさとの中には道端に坐して物乞ひする悲惨な色のあつたことを吾等を決して忘れてはならない。(九日發)